

京都精華大学 完成報告書

マンガ学部

## 1. 学部の教育目標

本学は、1973年に京都精華短期大学美術科デザインコースにマンガクラスを開講して以来、マンガ表現者育成のための実践的教育を展開してきた実績に基づいて、2006年度、日本の大学で初めて、マンガ学科、マンガプロデュース学科、アニメーション学科の3学科で構成されるマンガ学部を開設した。

マンガ学部では、独自の表現手法と世界観に拠って現代日本の視覚文化の代表とも言えるマンガ文化の伝承とその未来への発展に貢献する人材のために、以下の教育目標を設定する。

- ① 卒業後プロとしてあらゆる要請に応えられるように、多面的に課題を与え、確かな技術力を養成する。
- ② 現役の作家を教員とし、実践的な教育を行う。
- ③ マンガ、アニメーションの歴史や原理論を学び、理論的にも制作を支えるカリキュラムを提供する。

さらに、各学科、コースの教育研究上の目的をそれぞれ定めた教育を行っている。

## 2. カリキュラムのバランスと教養教育

マンガ学部の専門教育科目は、実技系科目と講義系科目で編成される。実技系科目では、各専門分野においてデッサンやクロッキーなど基礎的な技術指導を経て、応用力を身につけ表現の幅を広げる指導を行っている。4年次では4年間の学修の集大成である卒業制作に取り組み、京都国際マンガミュージアムで作品を展示する展覧会を開催している。

また、マンガ表現にはデジタル技術の修得が不可欠であり、デジタル技術の基礎から応用まで指導する科目も設けている。

各学科の実技系専門科目はコース毎の領域に応じて編成されており、マンガ学科カートゥーンコースでは、風刺的な内容を1コママンガで表現する能力を伸ばすことをねらいとしている。マンガ学科ストーリーマンガコースでは、ストーリー性のある長編マンガを制作する能力を伸ばすことをねらいとしている。マンガプロデュース学科では、マンガ領域における企画立案、原作制作、編集、作品批評の能力を身につけることをねらいとしている。アニメーション学科では作画・デジタル技術を身につけただけでなく、アニメーションの原理である「動き」の理論的探究を通じて体系的にアニメーションについて学ぶことをねらいとしている。

講義系科目ではマンガ、アニメーションについて歴史的、文化的背景を学び、分析手法も身につけることをねらいとしている。また、知識の提供のみならず、マンガ、アニメーションを題材としたワークショップ形式の演習なども行っている。

教養教育としては、芸術学部、デザイン学部と共同で開講している「基礎講義・演習科目」を

設けている。哲学・文学・歴史などに関する人文科学の領域、社会や政治などに関する社会科学の領域、自然や環境に関する自然科学の領域に加えて、スポーツや健康に関する科目、フランス語、中国語等の外国語科目から構成される。また、人文学部、芸術学部、デザイン学部の講義系専門科目の一部が「他学部交流科目」科目として、マンガ学部の学生にも開講されている。また、マンガ文化は日本に限らず世界規模で浸透しており、本学でも留学生を多数受け入れており、海外との交流が盛んである。外国語教育として英語教育を必修科目として位置づけ、海外への関心を高め、将来的に海外で活躍できる人材の輩出することをねらいとしている。

情報教育に関わる科目については、Windows や Mac を使ったワード、エクセル、パワーポイント、フォトショップ、イラストレータの使用法や Web 作成の各科目を、「基礎講義・演習科目」の中に設置しており、社会で必要なPCの基礎的なスキルを習得できるようにしている。

マンガ、アニメーションの表現の領域を深め、優れた作品を創造していくには、人文・社会科学からマンガ文化を取り巻く歴史まで幅広い知識と教養が必要であり、表現能力の養成と理論的学習との調和のとれたカリキュラム編成となっている。

### 3. 導入教育

入学直後のオリエンテーションにおいて、マンガ学部生全員が参加するワークショップを実施している。異なるコースの新入生とのコミュニケーションの促進を図ると同時に、ディスカッションを通じて、表現者をめざす志を共有する場として有効に機能している。また、主体的な4年間の学生生活を過ごせるよう、大学の学びと生活の両面から支援する内容で構成される「表現ナビ」という科目を1年次必修科目として提供している。

マンガ、アニメーションの作家をめざす学生は、各自が高い技能と知識を持っていると自負している者が多いが、趣味や興味のレベルであり、プロの表現者として成長するには、基礎から体系的に専門的な技術や知識を修得する必要がある。専門教育科目では、各コースとも1年次はデッサンや絵画技法、作画技法などの基礎技能を徹底的に訓練する導入的な授業を行ったうえで、マンガ・アニメーションの制作に取り組む編成となっている。また、各コースにはそれぞれ授業運営を援助する助手を配置しており、学習や学生生活の相談役として機能している。

マンガ、アニメーションを学ぶ上で、その発展の歴史や過去の作品の構成について、体系的に学習することが重要であり、各学科とも1年次に「マンガ史概論」などの講義科目を必修科目として位置づけている。

### 4. 入学時、進級時などにおける履修指導と履修登録の単位数の上限

入学時および進級時には、学科および事務局によるガイダンスを実施している。新入生に対して行われる事務局の全体ガイダンスでは、学内規則をはじめ、授業科目群の構成や概要、

履修登録指導および履修登録単位数の上限を中心に説明しており、その後の個別指導でもきめ細かな対応を行っている。また、各学科においては専門領域科目の説明を中心に行い、4年間の教育内容にあたるカリキュラムについて説明を行っている。

進級時には、事務局より全体ガイダンスによる履修登録指導と単位取得僅少者等に対しては個別指導を行っている。各学科においても専門領域における全体説明と個別指導を行っている。

マンガ学部では1 Semesterで履修登録可能な単位の上限は、卒業要件に含まれない教職免許科目等や集中授業科目を除き、マンガ学科およびマンガプロデュース学科は22単位(1年で44単位)、アニメーション学科は24単位(1年で48単位)に設定している。

## 5. 授業評価とFD

本学では、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究の実施に関する事項を審議するために、「FD委員会」を定期的に開催している。また、マンガ学部では学部固有のFDに関する諸問題を協議するために、「FD委員会」のもとに「マンガ学部FD委員会」を設置しており、学部より委員を選定し随時開催している。

審議事項は以下の通りである。

[大学全体のFD活動]

(ア) 本学のFDに関する事項

(イ) 本学のFD活動や学部への公表に関すること

(ウ) 他大学のFD活動や外部のFD関連セミナー等に関すること

[学部固有のFD活動]

(1) 各学部固有のFDに関する諸問題

FD活動としては、学生による授業評価アンケートを各 Semester 終了時期に全学生対象に実施している。講義・演習系授業はマークシート方式、実技系授業は記述式のアンケートを実施しており、回収したアンケートは科目毎に集計して学部長を通じて担当教員へフィードバックしている。また、必要に応じてアンケート結果を学部FD委員会で検討し、授業内容の改善に努めている。なお、授業アンケート結果は本学のウェブサイトで公開している。

また、2011 年度より web 上で e ポートフォリオ・システムを導入し、学生が自分の作品をアーカイブ化して、学修履歴を残せるようにした。

## 6. 授業の方法および内容ならびに一年間の授業計画、成績評価基準の明示

授業内容および一年間の授業計画については、冊子「マンガ学部履修のてびき」、「講義概要シラバス」やWEBシラバスにおいて学生全員に明示している。また、「マンガ学部履修のてびき」には、各学科の設置主旨や、1年次から4年次までの各年次における教育課程

および授業計画を明文化して掲載している。

各シラバスの掲載内容については、担当教員にシラバス作成を依頼する際、書面において各授業内容の1)授業概要および目的、2)到達目標、3)授業計画、4)評価方法・評価基準、5)履修条件・留意点および受講生に対する要望(予習・復習等)の記載を求めており、学生に対しては詳細な内容を明示している。

シラバス記載に精粗の差がある場合は、教学推進センター長名で記載内容の改善を求めており、記載不十分科目数は年々逡減している。また、2010年度より「到達目標」項目を新設し、教員に作成を依頼している。

以上